

# 報告:「多自然型川づくり15周年記念シンポジウム in 四万十市」



## 研究第四部 主任研究員 西畑 昭史

2005年10月11日、上記シンポジウムが国土交通省四国地方整備局主催、スイス大使館、徳島県・香川県・愛媛県・高知県、(社)四国建設弘済会、四国の川を考える会後援のもと高知県四万十市のサンリバー四万十において、開催されました。300名の定員に対して参加者数が346名と盛況となりました。

「多自然型川づくりの推進について」の通達が平成2年11月になされて、今年で15周年を迎えます。その間、四国はもとより日本全国で、「多自然型川づくり」を基本理念として、良好な水辺空間の形成を図るべく河川工事が行われてきました。

高知県四万十市(旧中村市)はスイスで近自然工法を実践したクリスチャン・ゲルディ氏を昭和63年に迎えて多自然型川づくりのシンポジウムを行い、またその事業を開始した四万十川を擁する地です。この地で記念の大会を開催したのを機に、改めて多自然型川づくりの意義と効果を認識し、さらなる展開を目指したものです。

大会の始めに、ゲルディ氏への「河川功労者表彰伝達式」が行われました。この「河川功労者表彰」は(社)日本河川協会から、本年5月25日に「河川や水の分野において日本との交流と連携を深めた功績、多自然型川づくりの意識・技術向上への貢献」があったとして表彰されたものですが、ゲルディ氏が表彰式に出席できなかったため、この日に、功労者表彰の推薦者である国土交通省四国地方整備局の北橋局長から伝達されました。



河川功労者表彰伝達式

### ●プログラム(敬称略)

記念講演:「スイスから見た日本の川づくりとヨーロッパの現状」

元スイス連邦チューリッヒ州建設局 クリスチャン・ゲルディ

基調講演:「日本の河川行政の環境配慮への歴史的変

遷」(財)

リバーフロント整備センター理事長 竹村公太郎  
事例報告①:「多自然型川づくりに関するこれまでの取り組み」

国土交通省河川局河川環境課課長補佐 藤巻浩之  
事例報告②:「小田川における多自然型川づくりの歴史とその影響」

五十崎町まちづくりシンポの会 世話人 亀岡徹  
パネルディスカッション:「多自然型川づくりの評価と今後の方向性についての提案」

コーディネーター:玉井佐一(高知大学名誉教授)

コメンテーター:クリスチャン・ゲルディ

パネラー: 四万十・流域圏学会理事 石川妙子、高知県文化環境部長 島田京子、(社)トンボと自然を考える会常務理事 杉村光俊、国土交通省河川局河川環境課調整官 塚原浩一、四万十川流域住民ネットワーク代表世話人 西内燦夫

五十崎町まちづくりシンポの会世話人の亀岡氏による事例報告では、小田川における改修計画と住民による反対運動、スイスの近自然工法との出会い、多自然型川づくりで進めた小田川の改修と全国への情報発信、小田川の現状と今後の多自然型川づくりへの希望等について、お話しをいただきました。



亀岡氏による事例報告

またパネルディスカッションでは、各パネラーにより、住民、行政、研究者等のそれぞれの立場から、多自然型川づくりの評価と今後の方向性について、活発な討論をいただきました。



パネルディスカッション